

資料3

生駒市学研高山地区に係る調査結果の概略

<生駒市が実施した調査>

学研高山地区内の環境保全状況を確認するため、大気質、河川水質、地下水について行った調査

【大気質】

調査項目、調査地点：資料2 P1～2 調査結果：P20、21

(大気質 一般環境項目)

調査地点 高山サイエンスプラザ屋上

頻度 12回／年

結果 窒素酸化物・硫黄酸化物の結果は、全調査月で基準以下であった。
簡易測定で環境基準の測定方法と異なるため、単純比較はできない。

(沿道の自動車排ガス調査)

調査地点 R163号と市道芝・庄田線の交差点東詰め

頻度 1回／年(7日間連続測定)

結果 二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、一酸化炭素、微小粒子状物質において、環境基準値以下で良好な環境が保たれていた。

【水質(河川・調整池)】

調査項目、調査地点：資料2 P1、3 調査結果：P24～28

(河川等 生活環境項目調査)

調査地点 西浦川、山田川、調整池

頻度 4回／年

結果 河川水等の農業用水利用のため、農業用水基準と比較する。

西浦川は農業用水基準をすべて満足した。

山田川は水素イオン濃度が年3回、農業用水基準を上回ったが過年度調査結果の範囲内であった。

調整池は水素イオン濃度が3回、化学的酸素要求量が1回、農業用水基準を上回ったが過年度調査結果の範囲内であった。

水素イオン濃度の上昇要因は、山田川、調整池とも3面張りのコンクリートで覆われていることや特に水温上昇により藻類、水草が活発な光合成を行い、水中の二酸化炭素量が減少し、水素イオン濃度が上昇する。

山田川、調整池とも過年度調査結果の範囲内で、特に異常はなかった。

化学的酸素要求量は高いほど有機物が多く、水生生物の呼吸に必要な溶存酸素量が不足し、土壌が還元され根腐れが起こる可能性がある。今回は一過性であり、過年度調査結果の範囲内であることから異常はないと考えられる。

(河川・調整池 人の健康の保護に関する環境基準項目調査)

調査地点 山田川

頻度 1 回／年

結果 人の健康の保護に関する項目は全ての項目において人の健康の保護に関する環境基準を満足した。

【水質(井戸水)】

調査地点、調査地点図:資料2 P1、3 調査結果:P33～38

(水道法第 4 条の規定に基づく「水質基準に関する省令」の項目調査)

調査地点 No.1 井戸(農園)、No.2 井戸(大学院大学)、No.3 井戸(個人)

頻度 1 回／年

結果 すべての井戸で鉄、マンガンが水道水質基準を超過したが、過年度調査結果の範囲内であった。また、No.2と No.3 井戸で色度が水道水質基準を超過した。

色度上昇の要因としては地質中に含まれる鉄分及びマンガンの溶出が考えられる。

★一般環境大気及び自動車排ガス調査、水質調査において異常はみられなかったが、井戸水調査で一部の項目で基準を越えた。当該地域の事業所の事業活動というよりは地質による影響が考えられるものの、今後の動向も注視していきます。

<奈良先端科学技術大学院大学に係る調査>

環境保全協定に基づく学校敷地内の実験排気、実験排水の本市調査結果とRI(ラジオアイソトープ)に関する大学院大学調査結果

【実験排気】

調査項目、調査地点図:資料2 P4、5 調査結果:P39、40

(実験排気項目調査)

調査地点 P2 排気口直下、屋上排気口 (バイオサイエンス研究棟)

頻度 12回／年

結果 P2 排気口直下、屋上排気口とも大腸菌群については検出されず、一般細菌については1～2個/皿で過年度の調査結果の範囲内であり、

特に異常はみられなかった。

【実験排水】

調査項目、調査地点図：資料2 P4、5 調査結果：P41

（実験排水項目調査）

調査地点 モニター槽流入直前

頻度 12回／年

結果 水素イオン濃度は 6.5～7.1、大腸菌群数は検出されず、一般細菌は 11～3100個/ mL、遊離残留塩素は 0.1～1.0mg/L であり、過年度調査結果の範囲内で異常はみられなかった。

【RI関係】

調査項目：資料2 P4 調査結果：P42

（RI 管理区域内及び周辺区域空間線量率調査）

調査地点 RI 管理区域内及び周辺区域 41 地点

頻度 12回／年

結果 RI 管理区域内及び周辺区域の全地点で規制値超過はなかった。

（RI 関係排気口 放射能濃度調査）

調査地点 排気口

頻度 常時

結果 排気口の γ 線、 β (γ) 線、ヨウ素について、規制値の超過はなかった。

（RI 関係希釈槽 放射能濃度調査）

調査地点 希釈槽

頻度 排水時

結果 希釈槽の γ 線、 β 線について、規制値の超過はなかった。

★奈良先端科学技術大学院大学の実験排気、実験排水及び RI 施設の調査結果から環境保全協定が適正に履行されていることを確認しております。

<参天製薬株式会社に係る調査>

環境保全協定に基づく事業所敷地内の実験排気及び実験排水の本市調査結果とボイラー排ガス及び騒音・振動の事業者調査結果

【実験排気】

調査項目、調査地点図：資料2 P6、7 調査結果：P43～45

（実験排気の細菌調査）

調査地点 排気口直下（南棟）

頻度 12回／年

結果 排気口直下における細菌調査では、大腸菌群は検出されず、一般細菌が 0～2 個／皿の検出があり、過年度調査結果の範囲内であった。

（保存効力試験室の細菌調査）

調査地点 保存効力試験室床、安全キャビネット内、保存効力実験室排気口直下

頻度 4回／年

結果 保存効力試験室床及びその排気口直下で黒カビが検出されたが、過年度調査結果の範囲内であった。

【実験排水】

調査項目、調査地点図：資料2 P6、7 調査結果：P46

（実験排水項目調査）

調査地点 処理水槽流入前（南棟）

頻度 12 回／年

結果 水素イオン濃度は 6.5～7.4、大腸菌群数は 0 個/mL、一般細菌は 49～1400 個/mL、遊離残留塩素は 0.2～1.0mg/L の範囲で、過年度調査結果の範囲内であった。

【ボイラー排ガス】

調査項目：資料2 P6 調査結果：P47

（ボイラー排ガス項目調査）

調査地点 排煙測定口（北棟 4 箇所、南棟 1 箇所）

頻度 2回／年

結果 ダスト濃度、窒素酸化物濃度の排出基準以下であった。

【騒音・振動】

調査項目、調査地点図：資料2 P6、7 調査結果：P47

（騒音及び振動調査）

調査地点 No.1、No.2、No.3（敷地境界）

頻度 1回／年

結果 全時間区分において、特定工場等から発生する騒音・振動に係る規制基準値以下であった。

★参天製薬株式会社の実験排気、実験排水、ボイラー排ガス及び特定施設の騒音振動の調査結果において環境保全協定が適正に履行されていることを確認しております。

<上六印刷(株)に係る測定>

環境保全協定に基づき、産業施設の稼働に伴い発生する騒音等が法定基準を満たすことを確認するための悪臭、騒音・振動の事業者調査結果

【悪臭項目】

調査項目、調査地点図：資料2 P8、9 調査結果：P48

(悪臭項目調査)

調査地点 敷地境界(東)、敷地境界(南)

頻度 1回／年

結果 悪臭防止法に基づく悪臭の規制基準以下であった。

【騒音・振動項目】

調査項目、調査地点図：資料2 P8、9 調査結果：P48

(騒音・振動項目調査)

調査地点 敷地境界(東)、敷地境界(南)

頻度 1回／年

結果 全時間区分において、特定工場等から発生する騒音・振動に係る規制基準値以下であった。

★上六印刷株式会社の悪臭、騒音・振動調査結果から環境保全協定が適正に履行されていることを確認しております。

<株式会社バーレープラスに係る調査>

環境保全協定に基づき、産業施設の稼働に伴い発生する排ガス等が法定基準を満たすことを確認するための排ガス、悪臭、水質、騒音・振動の事業者調査結果

【排ガス項目】

調査項目、調査地点図：資料2 P10、11 調査結果：P49

(大気排ガス項目調査)

調査地点 No.1 ディッピング総合排気ダクト排出口
(※ディッピング⇒加熱した金型を樹脂槽に浸して成型する工程)
頻度 1回／年
結果 全ての項目で大気汚染防止法に係る排出基準値以下であった。

【悪臭項目】

調査項目、調査地点図：資料2 P10、11 調査結果：P51、52

(悪臭項目調査)

調査地点 No.1 ディッピング総合排気ダクト排出口、No.2 敷地境界
頻度 1回／年
結果 排出口及び敷地境界とも悪臭防止法に基づく悪臭の規制基準値以下であった。

【水質項目】

調査項目、調査地点図：資料2 P10、11 調査結果：P53

(水質項目調査)

調査地点 No.1 放流口
頻度 1回／年
結果 事業所敷地に降った雨水の最終枡の水質結果は、全て排水基準値以下であった。

【騒音・振動項目】

調査項目、調査地点図：資料2 P10、11 調査結果：P54

(騒音・振動項目調査)

調査地点 No.1 敷地境界、No.2 敷地境界、No.3 敷地境界、No.4 敷地境界
頻度 1回／年
結果 全時間区分において、特定工場等から発生する騒音・振動に係る規制基準値以下であった。

★株式会社バーレープラスの排ガス、悪臭、排水、騒音・振動調査結果から環境保全協定が適正に履行されていることを確認しております。

<株式会社日阪製作所に係る調査>

環境保全協定に基づき、産業施設の稼働に伴い発生する排ガス等が法定基準を満たすことを確認するため、排ガス、水質、騒音・振動の事業者調査結果

【ボイラー排ガス】

調査項目、調査地点図：資料2 P12、13 調査結果：P55

（ボイラー排ガス項目調査）

調査地点 排煙測定口（ボイラー室2箇所）

頻度 1回／年

結果 ダスト濃度、窒素酸化物濃度の排出基準以下であった。

【騒音・振動項目】

調査項目、調査地点図：資料2 P12、13 調査結果：P55

（騒音・振動項目調査）

調査地点 （騒音）測定地点①、②、③、④、⑤、（振動）測定地点①、②

頻度 1回／年

結果 全時間区分において、特定工場等から発生する騒音・振動に係る規制基準値以下であった。

★株式会社日阪製作所のボイラー排ガス調査結果から環境保全協定が適正に履行されていることを確認しております。

【基準を満足しなかった地点及び項目】

調査対象	地 点	項 目	調査月	測定値	農業用水基準
河川及び調整池	山田川	水素イオン濃度	8 月	7.6	6.0～7.5
			11月	7.9	
			2月	7.9	
	調整池	水素イオン濃度	8月	8.3	6.0～7.5
			11月	7.8	
			2月	7.9	
		化学的酸素要求量	8月	7.1	6以下
調査対象	地 点	項 目	測定月	測定値	水道水質基準
井戸水	No.1 井戸	鉄及びその化合物	8 月	4.0	0.3mg/L 以下
		マンガン及びその化合物		0.20	0.05mg/L 以下
	No.2 井戸	鉄及びその化合物		2.8	0.3mg/L 以下
		マンガン及びその化合物		0.31	0.05mg/L 以下
		色度		5.6	5度以下
	No.3 井戸	鉄及びその化合物		1.9	0.3mg/L 以下
		マンガン及びその化合物		0.22	0.05mg/L 以下
		色度		9.7	5度以下

※農業用水基準：農業用水の要望水質（水稻）で水稻に被害を与えない限界濃度を検討し、学識経験者の意見も取り入れて昭和 45 年 3 月に定めた基準で法的拘束力はないが水稻の正常な生育のため望ましいかんがい用水の指標

※水道水質基準：水質基準に関する省令（平成15年5月30日厚生労働省令第101号）に定められ、水道水はこの水質基準に適合するものでなければならない。